



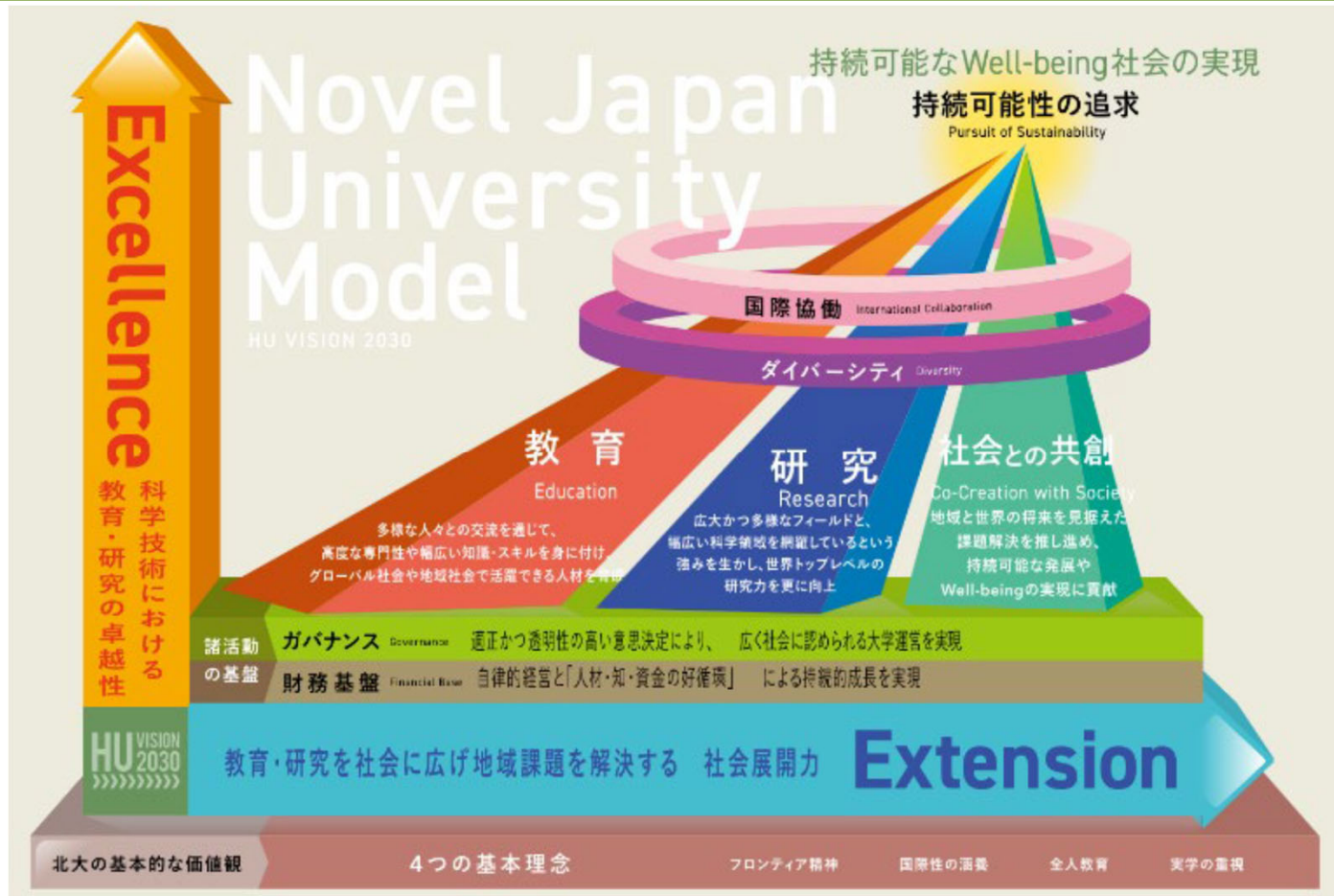
北海道大学

課題解決DXコンソーシアムにおける
共同研究型インターンシップ
～学生向け説明会～

「課題解決DX人材コンソーシアム」担当

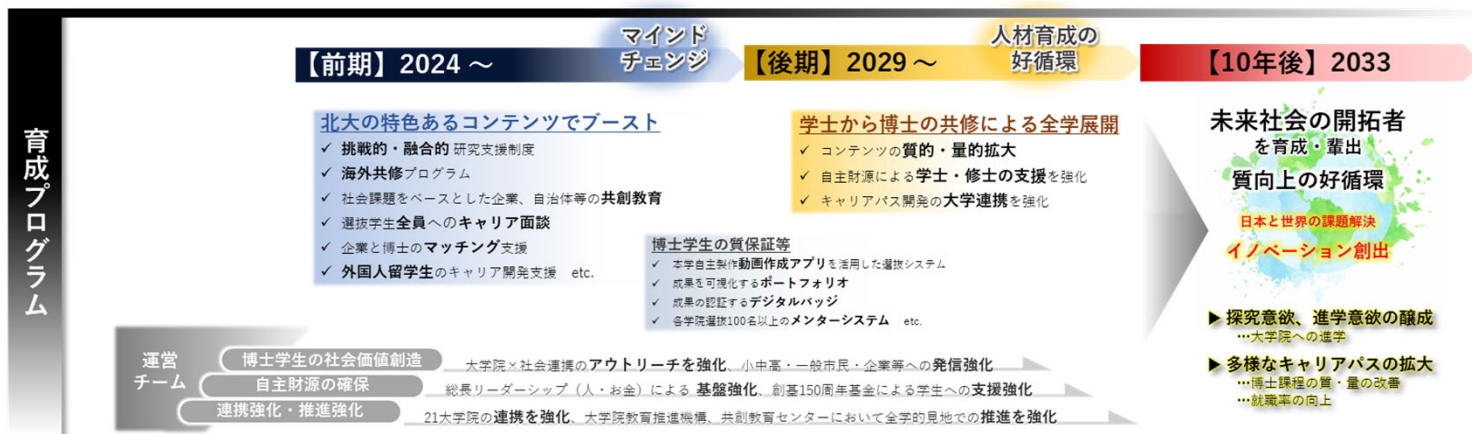
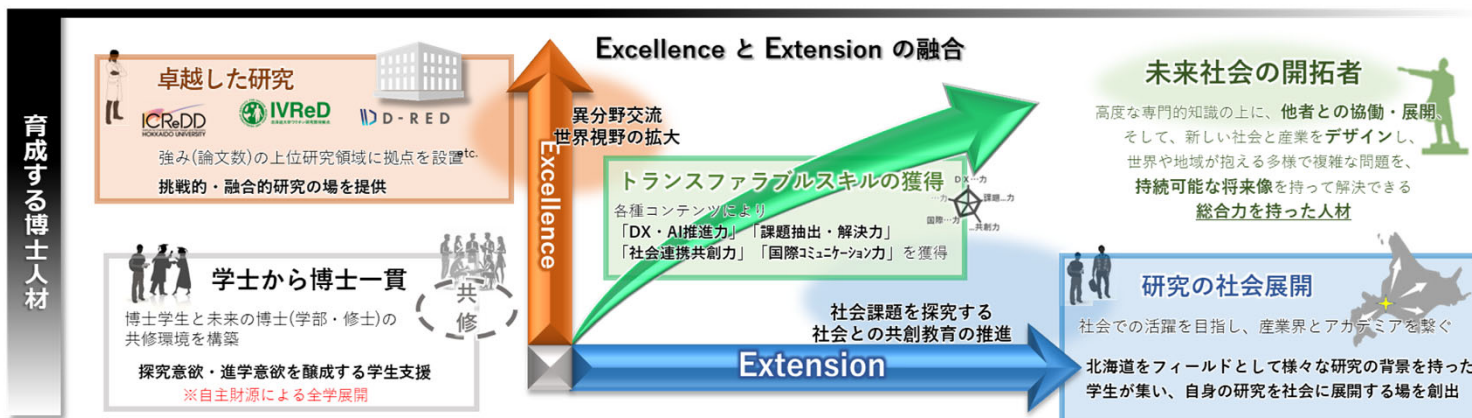
石森 浩一郎・高橋 正行・土井 将義

HU VISION 2030 (北海道大学2030年のあるべき姿)



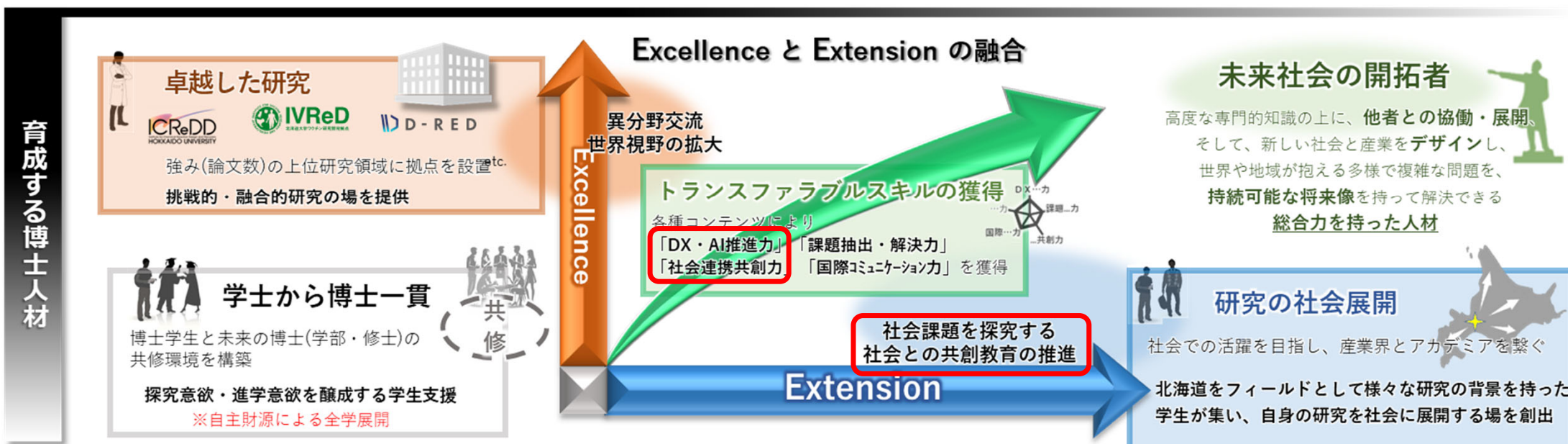
Excellence と Extension の融合による未来社会の開拓者育成プログラム (令和6年度: EXEX博士人材フェローシップ)

社会が博士人材を高く評価し、その姿を見た多くの若い学部・修士学生が次の博士課程を目指す好循環（エコシステム）を構築



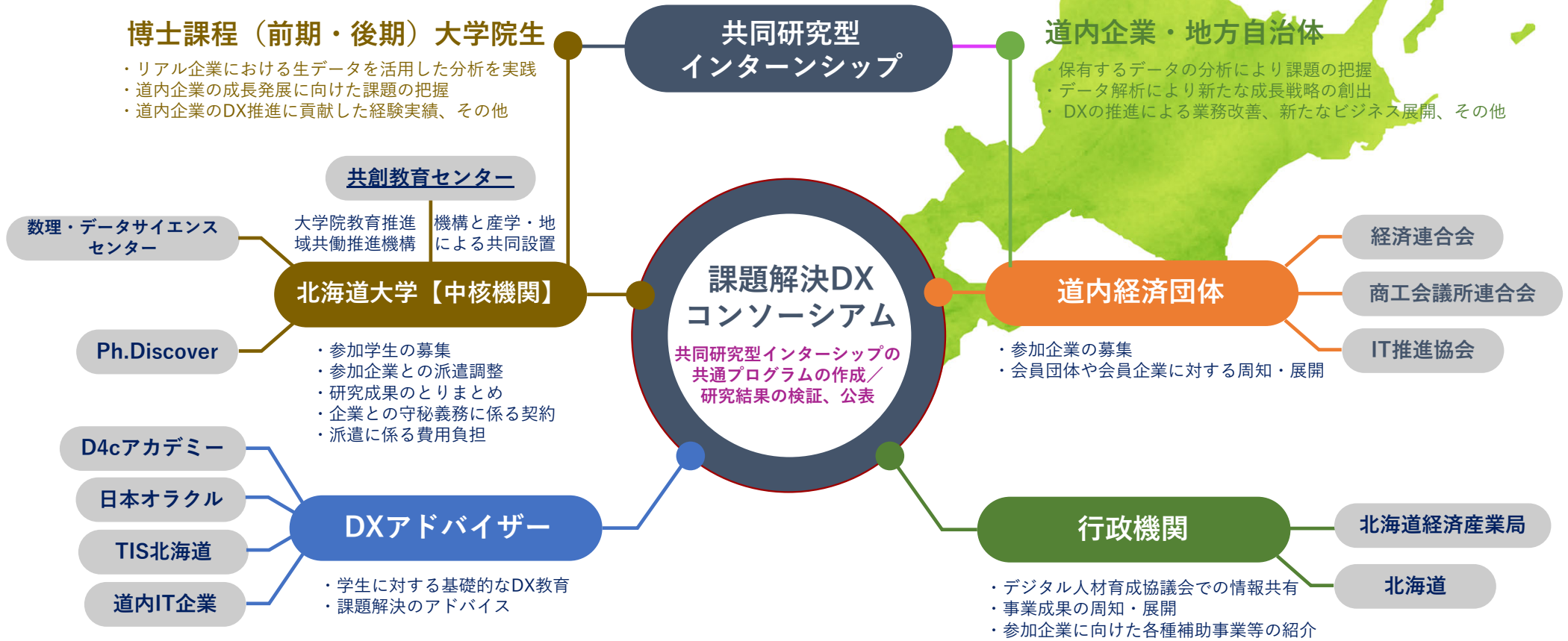
Excellence と Extension の融合による未来社会の開拓者育成プログラム (令和6年度: EXEX博士人材フェローシップ)

社会が博士人材を高く評価し、その姿を見た多くの若い学部・修士学生が次の博士課程を目指す好循環（エコシステム）を構築



課題解決DX人材コンソーシアム

DXの道内展開・デジタル人材の育成によるSociety5.0推進のためのプラットフォーム



共同研究型インターンシップ

DXによる地域や企業の課題抽出・解決とそれを推進できるDX人材の育成



こんなお困りごと、ありませんか??



顧客アンケートの活用
方法が分からない



分析テーマの設定（現状の課題）
が分からない
データはあるが有効活用できない



データを活用するイメージは
あるが、分析する人がいない



検証する方法が分からない



データ活用の効果が継続
できない



現状分析



テーマ設定



課題解決/仮説設定



効果検証



継続検証



SIP事業：ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築



SIP

戦略的イノベーション創造プログラム
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

Google 提供



国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

>お問い合わせ・ご意見・ご要望

研究課題の紹介

研究課題の成果

ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築

研究開発内容

本課題は、内閣府の「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画(令和5年3月16日決定)※」に基づき、いつでも・どこでも、自分の望む学び方・働き方を(に)選択・挑戦でき、さらにはそのような環境が、個人の特性や価値観、地域の状況等に関わらず保障される社会の実現、つまりは、Society 5.0を生きる一人ひとりが、多様な幸せ(well-being)を実現できるフラットな社会を達成することを目指しています。

このような将来像を実現するために、本課題の研究開発では、サブ課題A～Eを設定し、サブ課題Dにおいて、地方に「新たな『学び』×働き方×バーチャル空間の「場(プラットフォーム)」を構築し、サブ課題A～Cを有機的に連携させながら、統合して実証することで、目指す将来像を先取りしたショーケースを提示します。

また、サブ課題Eでは、サブ課題A～Dにおける研究開発や実証を通じて可視化される制度的・経済的・心理的な課題等をすくいあげ、その解決策の検討を各サブ課題にフィードバックすることで、「新たな『学び』」や「働き方」を保証する社会基盤の構築を図ります。

これらの取組によって、Society 5.0を地方から実現し、最終的には、日本全体をSociety 5.0の目指すべき未来社会に導くことを目指しています。

研究課題の紹介

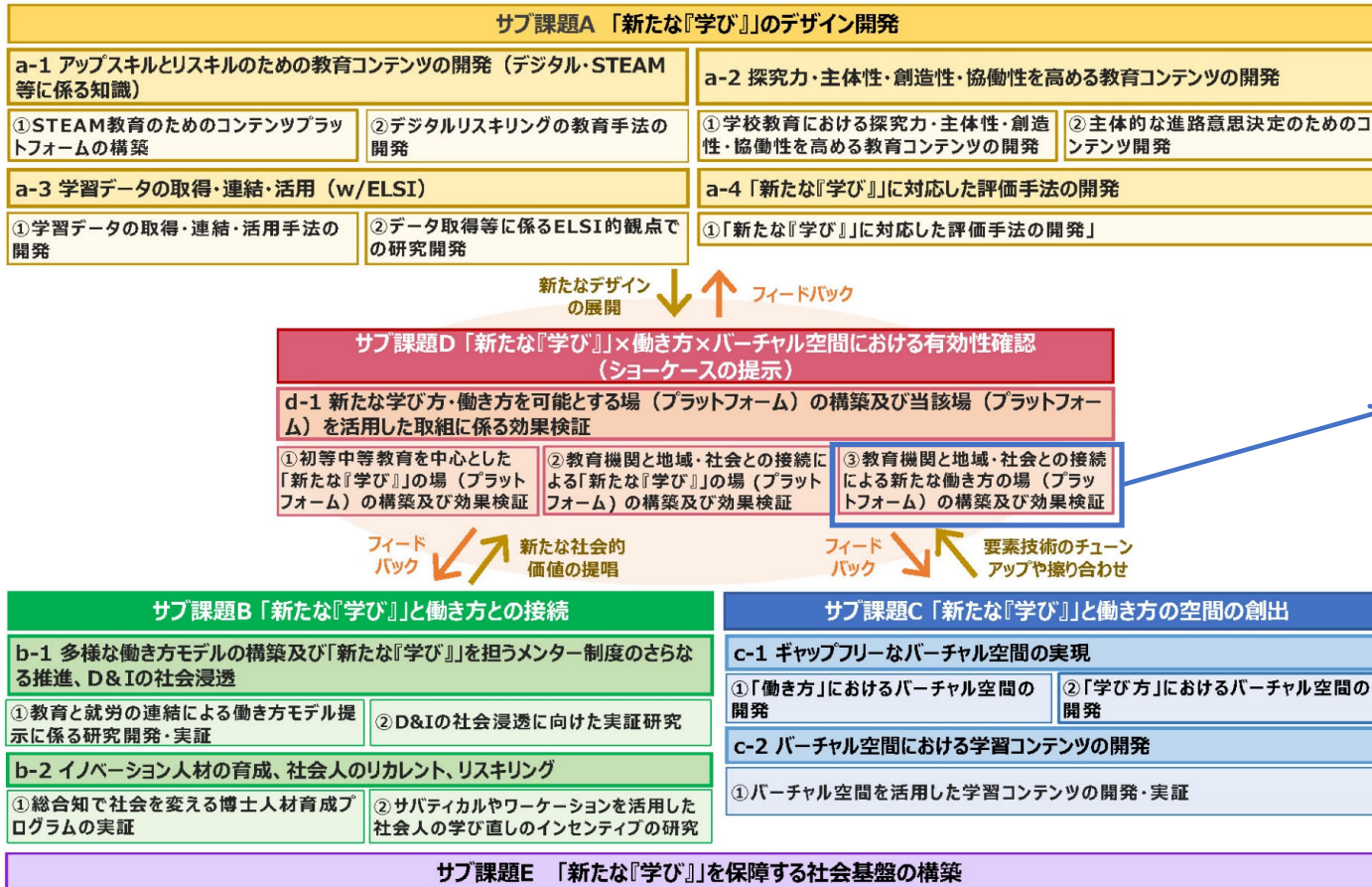
> [ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築](#)

☑ [新着情報](#)



北海道大学

SIP事業：ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築：概要



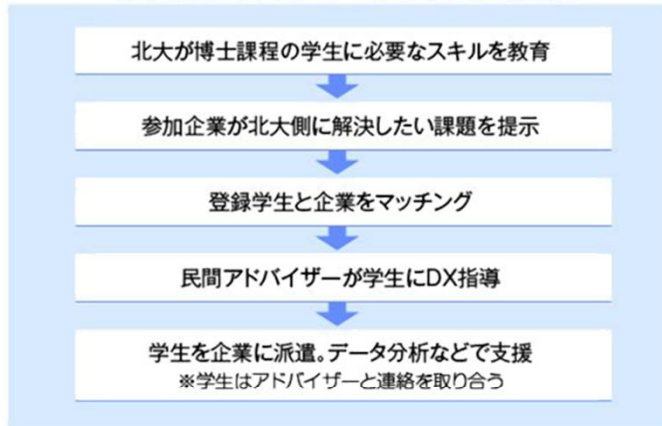
d-1-③地域産業にイノベーションをもたらす新たな働き方を実現するため、「産業」・「地域」・「高等教育」が連携を図るための場（プラットフォーム）を構築し、デジタル技術を活用しながら、地域特性を生かした新たな産業モデルの創出を図る。例えば、本課題の他の研究開発テーマにおける人材育成と連携し、地域の一次産業について、デジタル技術を活用して現場の様々な情報を徹底的に分析し、生産管理の最適化に取り組むデータドリブンな経営に転換すること等が想定される。

課題解決DX人材コンソーシアム：メディアも注目

北大、DX人材派遣で企業支援 博士課程の学生がデータ分析 産学官連携で事業体

北海道新聞 1月17日電子版、1月22日朝刊1面掲載 [f](#) [u](#)

「共同研究型インターンシップ」の流れ



北大は新年度、デジタルトランスフォーメーション（DX）の教育を受けた大学院博士課程の学生をインターンシップで道内の中小企業に派遣し、データ分析などで課題解決に役立ててもらい事業に乗り出す。デジタル関連の知識を学んだ学生の多くは就職で道外に流出している。在学中に地元企業と接点を持たせることで、道内に活躍の場を見いだす人材を増やし、地域貢献につなげる。



博士人材の未来を拓くウェブマガジン

About

Archives

Categ

「共同研究型インターンシップ」で北海道大学・室蘭工業大学の大学院生と協働してみませんか？



Information

Update

2024.01.18

Categories

[MESSAGES](#), [CAREERS](#), [NEWS](#)

Keywords

[#DX](#), [#IT分野](#), [#インターンシップ](#),
[#キャリアパス](#), [#データサイエンス](#),
[#大学院生](#)



博士人材の未来を拓く
ウェブマガジン



北海道大学

共同研究型インターンシップの流れ

DXアドバイザーの継続的な支援による課題解決とDX人材育成



タイムスケジュール

- 2023年12月 課題解決DX人材コンソーシアム運営委員会発足
- 2024年 1月 課題解決DXコンソーシアム発足・参加企業の募集
- 2024年 2月 共同研究型インターンシップ授業科目設定
- 2024年 5月 インターンシップ開始（通年不定期）

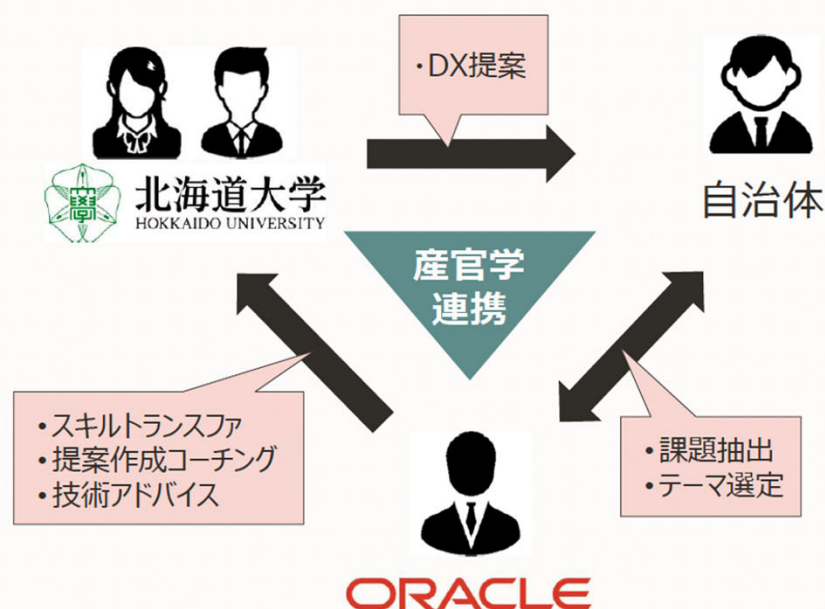
参加企業募集中！



博士課程DX教育プログラム：北海道富良野市のスマートシティ推進支援

プログラム概要：Society 5.0を牽引するDX博士人材の育成

学び × 地域課題解決



実施概要：

学生が民間IT企業に就職したことを想定し、自治体をクライアントとしたときに、地域課題に対しIT技術・データを活用して解決していくDX提案を行う。

富良野市の抱える諸課題から事前に選定されたテーマに対し、実際にクラウド環境も活用しながら仮説検証を行い、課題解決を目指す。



博士課程DX教育プログラム：北海道富良野市のスマートシティ推進支援：令和3年度

富良野市が抱える2つの課題に対して、クラウド・サービスを活用したデータ分析および可視化を通して、参加学生が施策提案

ワインチーム

「ふらのワイン」販売増を通じて、
地域特有産業・農業を維持・発展
する取り組み



リサイクルチーム

カーボンニュートラル実現に向けた
リサイクル率90%の富良野のゴミ分別
文化を維持・発展する取り組み



「博士課程DX教育プログラム:北海道富良野市のスマートシティ推進支援」の流れ

プログラムの流れ

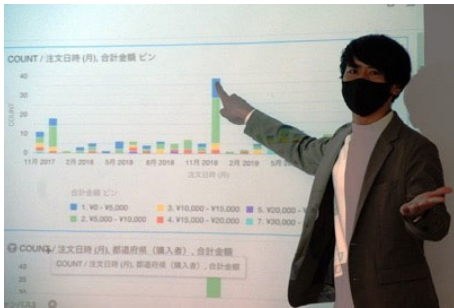


博士課程DX教育プログラム：北海道富良野市のスマートシティ推進支援：ワークショップ

実際のデータを用いた解析：

クラウド環境の作り方・データ分析ツールの使い方・データ活用するデータセット

第1回ワークショップ



学生が自分のクラウド環境を作り、富良野市様から提供されたデータを使ってどのような解析ができるかを実際に体験。

第2回ワークショップ



リサイクルチームのホワイトボード



- データに基づいた現状の整理
- 整理した情報から仮説を立案
- 仮説の裏付けに有用な追加データの有無の検討

博士課程DX教育プログラム：北海道富良野市のスマートシティ推進支援：フィールドワーク

ワインチーム



ワイン工場、ブドウ果樹研究所、
ブドウ農園、市内販売店舗、を見学

リサイクルチーム



リサイクルセンター、
市内ゴミステーション、を見学

データ解析に加えて、実際に現地視察し、関係者から生の声を聞き、施策の提案に向けて役立てる

博士課程DX教育プログラム：北海道富良野市のスマートシティ推進支援：最終報告会



ワインチーム

おうちでお試しワイン

～オンライン試飲セットで売り上げアップ～

リサイクルチーム

アプリが教えてくれる！正しい分類！

博士課程院生の分析力、発想力、企画立案力、プレゼンカに対して高い評価

20220330 道北（富良野）

北海道新聞

2022年(令和4年)3月30日(水曜日)

地域の話 14

ごみ分別アプリ 楽しめる仕組みに

【富良野】北大大学院生が、市内でのごみ分別・リサイクルの促進と、ふるのワインの売り上げアップを図る施策をまとめた。情報通信技術（ICT）を活用した地域づくり「スマートシティ」に取り組み、ソフトウェア大手「日本オオラケ」（東京）と連携して行ってきた産官学共同プロジェクトの一環。市役所を訪れて、市幹部ら約30人を前に提案した。

プロジェクトは昨年8月に開始。大学院生8人が2チームに分かれ、同社のクラウドサービスを活用して富良野の課題などに対するデータ分析を行ってきたほか、同12月に市内でフィールドワークも行った。

施策の提案は今日25日に実施し、ごみの分別やリサイクルを考えるチームは、警告シールが貼られる不適切な分別のごみを減らすためのアイデアを発表。警告シールが貼られたごみステーションの場所や枚数などに関する市のデータを分析したところ、月別では4月にシールを貼られるごみ袋が最も多いことが

北大院生、市に提案 ワインの販売促進策も

判明。大半の地区では分別が適切に行われている一方、リゾート地や新興住宅地などでシールが多く貼られている傾向があることから、転入者や旅行者にも分かりやすく伝える方法が必要と説明した。

その上で、市のごみ分別アプリなどをしっかりと確認してもらえらるよう、通知の時間帯や頻度などの工夫や、アプリ内にクイズを設けて楽しみながらごみを分ける方法を学べる環境づくりが必要と提案。ごみ収集員が警告シールを貼る際には、新たにタブレットを用いて、未回収の理由などをすぐに記録する仕組みにするべきだと話した。

発表後、市幹部は「未回収の理由を記録するというのは今までにない着眼点だった。今後の参考にしていきたい」とした。ただし、「ごみ収集員が作業と同時にタブレットを扱うのは非常に難しい」とも述べた。

一方、ワインの販売促進チームは、オンラインショップの利用状況に関するデータを分析。その結果、試飲セットを数種類発売することで、新規顧客の獲得につながるのではと提案していた。



北大大学院博士後期課程の大学院生が市幹部に対して施策を提案した発表会

ごみの分別などについて考えるチームの一員で、博士後期課程1年の川口貴大さん(25)は「地域の課題を解決するためにデータ分析に加え、コスト面も重視しながらアイデアを出していかなければならなかったことが、とても大切な学びだった」と話した。(千葉佳奈)



富良野支局
〒076-0032 富良野市若松町14番1
☎0167-23・2019
FAX 23・2796

旭川支社
〒070-8720 旭川市4条通9丁目
旭川北洋ビル
報道 ☎0166-21・2516
FAX 21・2517
販売 ☎ 21・2533
広告 ☎ 21・2539

金曜日は、北海道新聞の生活情報フリーペーパー
道新 ななかまど
毎週金曜日・約17万2千部発行!

道ホテル & 新冠温泉の
富良野市北の峰町の北海道ホテル&リゾート小林英樹社長は、日高管内新

提案を実用化へ

©北海道新聞社

博士課程DX教育プログラム：北海道富良野市のスマートシティ推進支援：令和4年度も注目

北大生が富良野市に課題解決策をプレゼン、副市長「目からうろこが落ちた」

掲載日 2023/03/30 07:00

著者：早川竜太

副市長も目からうろこのアイデアとは

TECH+ 解説/事例記事 - 2023. 4.11



日本オラクル、富良野市、北海道大学は3月28日、3者が産官学で進めているプロジェクト「北海道富良野市のスマートシティ推進支援」の最終報告会を開催し、メディア向けに公開した。

同プロジェクトは、北海道大学博士課程DX教育プログラムに参加している大学院生らが、富良野市が抱える課題の解決に挑むもの。オラクルのクラウドサービスを活用してさまざまなデータ分析や可視化を行った。そして、現地での視察やヒヤリングを通じて施策を練り上げ、富良野市に対して提案を行うといったプロジェクトだ。今回の報告会は、最終プレゼンを発表する場となった。

課題のテーマは、「富良野市民の省エネ行動変容によるカーボンニュートラルの促進」と、「富良野

- ◆ 目次
- 週間人気ランキング
- 副市長も目からうろこのアイデアとは

TECH+では、IT関連の解説/事例記事や日々の業務に役立つセミナーの開催情報を多数お届けしています。

今回は、日本オラクル、富良野市、北海道大学が産官学で進めているプロジェクト「北海道富良野市のスマートシティ推進支援」の終報告会のレポート記事をご紹介します。

○ 週間人気ランキング

[1位]

北大生が富良野市に課題解決策をプレゼン、副市長「目からうろこが落ちた」
https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230330-2639413/?utm_medium=email&utm_campaign=20230411

[2位]

“ChatGPT 全社導入”に舵を切ったパナソニック コネクト「失敗したっていい」
https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230329-2637316/?utm_medium=email&utm_campaign=20230411

[3位]

話題の「ChatGPT」、月額20ドルの有料版「ChatGPT Pro」を使うべきか？
<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230403-2643315/>

令和5年度：「博士課程DX教育プログラム」 → → → 「DX提案実習」

* 富良野市

テーマ1: 福祉

市民の健幸都市推進

(富良野市健幸都市推進プランへの施策提案)

テーマ2: 観光

秋のゼロカーボントラベラーの若年層開拓

(富良野市の観光施策・実行計画への提案)



* 石狩市

テーマ: エネルギー

「エネルギーの地産地消」を通じた

環境保全と地域活性化の両立

(再エネ利用×企業誘致の実現に向けた施策提案)

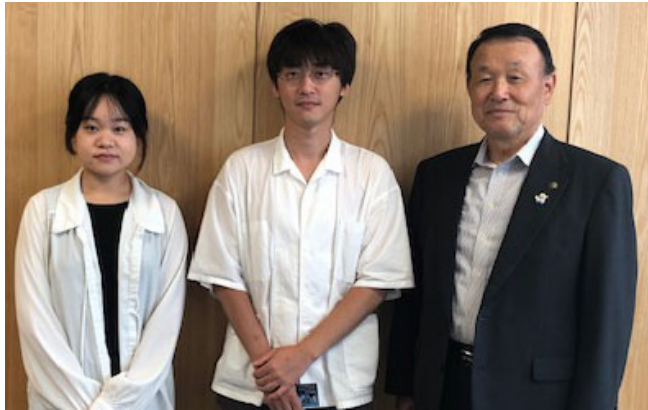


* 博士後期課程 5名
修士課程 8名の
大学院生が参加

総合化学院: 総合化学専攻
理学院: 物性物理学専攻
工学院: 応用物理学専攻
環境科学院: 環境物質科学専攻
情報科学院: 情報科学専攻
文学院: 人文学専攻
人間科学専攻
経済学院: 現代経済経営専攻
法学研究科: 法学政治学専攻

地域や企業の課題抽出とその解決とDX人材育成

これまでの実績と共同研究型インターンシップへの展開

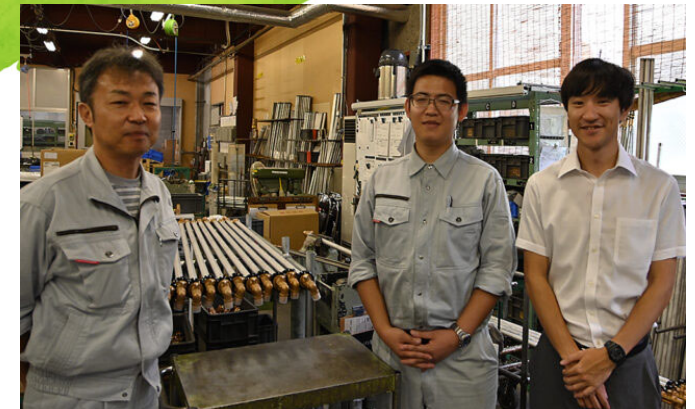


集中派遣型の例：北大大学院の学生2人が、富良野市シティプロモーション推進課でインターンシップ（就業体験）を行った（2023）。写真は富良野市提供、右は北市長
<https://phdiscover.jp/phd/article/2350>



解決策提案型の例：北大博士課程大学院生らが富良野市に向けてカーボンニュートラルの促進と新しい冬の観光活性について提案（2023）
<https://phdiscover.jp/phd/article/1939>

Ph.Discover 等で発信
 博士人材の未来を拓く
 ウェブマガジン



集中派遣型の例：北大博士課程院生が、本社を北海道小樽市に構える光合金製作所で企業インターンシップを体験（2020）
<https://phdiscover.jp/phd/article/696>

事務的な説明事項(北海道大学)

本取組は、「**大学院共通授業科目**」の授業科目として開講

- 通常の履修登録期間での履修登録が必要
- 派遣先企業の希望調査を行うため、説明会終了後、意向確認用のフォームを送信するので、参加を希望する派遣先企業（第1希望～第3希望）を選んで申請
- グループワークの実施日はグループ内で日程調整をして決める（曜日、日時を固定しないので参加しやすい）
- 派遣先企業へ行くための旅費、宿泊費は支給（給与や謝金は無い）



フェローシップ採択者へ（北海道大学）

◆ 選択必修の取組

いずれかのプログラムに参加し、一定のポイントを獲得することが必要
（目安：1単位1ポイント）

共創教育プログラム

- **共同研究型
インターンシップ**
 - 他大学合同合宿の参加
 - サイエンスフェスタの参加
- など

or

海外共修プログラム

- 国際インターンシップ
- ラーニングサテライト
- 海外研究室訪問

など

今後の手続き(北大・室工大共通)

説明会参加者へ共同研究型インターンシップの
「参加申込フォーム」を送信

- ▶ 参加企業のPR資料を掲載したURLも同時にお知らせ



参加希望者は、企業PR資料を見て、派遣希望先
企業を第1希望から第3希望まで選択し、フォー
ムを送信